

(参考)本検証委員会の設置の背景について

北海道胆振東部地震の検証等について

- 経済産業大臣の指示を踏まえ、平成30年北海道胆振東部地震に伴う大規模停電を検証するため、広域機関（第三者専門家で構成される委員会）において、原因究明等のための検証、及びそれを踏まえた再発防止策（停電規模抑制策含む）の検討※を行う。

※再発防止策の検討も踏まえつつ、電力供給の一層の強靱化を図るため、全国の電力インフラの総点検を行う。

○検証内容

1. 北海道全域に及ぶ大規模停電の発生原因の分析
(9月6日午前3時7分の地震発生後、午前3時25分の大規模停電発生まで)
2. 大規模停電後、一定の供給力(約300万kW)確保に至るプロセス(9月6日及び7日)における技術的な検証(ブラックスタート電源の立ち上げ等)
3. 上記の検証に基づき、北海道エリア等において講じられるべき再発防止策(停電規模抑制策含む) 等

○委員会の構成・運営方法

- ・ 電力技術の専門家から構成。
- ・ 委員会・配付資料は原則公開。(ネット中継も実施)
- ・ 北海道電力に対しては、データの提出等を求める。(北海道電力は委員には入らない)

○スケジュール

今週中(9月17日の週)に設置し、10月中を目途に中間報告。

(平成30年9月11日 北海道知事との共同記者会見における世耕経済産業大臣発言)

エネルギー供給体制の脆弱さが一因となって、今回の震災によって、道内が全て停電するという大規模停電が起き、多くの皆さんに大きな御迷惑をかけた。このことについては、エネルギー政策に責任を持つ経産大臣として、道民の皆さんに心からお詫びを申し上げたいと思いますし、今後に向けて大きな課題だというふうに考えております。こうした事態が二度と起こらないよう、原因の分析を透明感を持って行った上で、国と道が協力してエネルギー供給の強靱化に取り組んでまいりたいと思います。